

ドイツ語（初級A）／Aドイツ語 第3回 動詞の現在人称変化

範囲：教科書第1課（S.8-11）

《今回の基本例文》

1. Paris liegt in Frankreich. Berlin und München liegen in Deutschland. (CD5-6)

パリはフランスにある。ベルリンやミュンヘンはドイツにある。

[平叙文、規則動詞の現在人称変化、(前置詞 ⇒教科書第5課)]

2. Wohnst du in Tokyo? – Nein, ich wohne in Osaka. (CD5-7)

君は東京に住んでいるの？ – いや、僕は大阪に住んでいるよ。

[決定疑問文、(人称代名詞 ⇒教科書第6課)]

3. Was machen Sie? – Wir lernen Spanisch. (CD4-3)

あなたがたは何をなさっているのですか？ – 私たちはスペイン語を学習しております。

[疑問詞を含む疑問文、疑問詞]

4. Was bist du? – Ich bin Hausfrau. (CD8-3)

君は何者なの？ – 私は主婦だよ。

[不規則動詞 sein の現在人称変化]

5. Hast du Zeit? – Ja, ich habe Zeit. (CD9-4)

君は(いま)時間があるの？ – うん、あるよ。

[不規則動詞 haben の現在人称変化]

6. Er wird wieder gesund. (CD10-2)

彼はふたたび健康になる(だろう)。

[不規則動詞 werden の現在人称変化]

I 動詞に関する大前提：不定詞と不定詞句

補足 不定詞と不定詞句

◇ 辞書に載っている動詞の基本形を、**不定詞**という(まだ人称変化していない「不定」のかたちであるため)。

* 英語では「原形」と呼んでいるもの。ただし、英語でも *to* がつくと *to* 不定詞と呼んでいるのは周知の通り。

《動詞(不定詞)の基本構造》

○○ + -en

・このうち、○○を**語幹**、-enを**語尾**という。言い換えれば、不定詞から-enを除くと語幹になる。

(例) lernen の語幹は lern、kommen の語幹は komm、lieben の語幹は lieb。

◇ ドイツ語には**不定詞句**という概念がある。いま説明した**動詞の不定詞**に**目的語**や**述語内容語**や**修飾句**を組み合わせた表現が不定詞句であり、主語が加わって文になる以前の基本的なまとまりとなる

・英語の *to* 不定詞は、動詞(原形)－目的語／補語－副詞句の順である。一方、ドイツ語の不定詞句は、副詞句－目的語／述語内容語－動詞(不定詞)の順になる(日本語の語順に近くなる)ことに注意。

.....
: Deutsch lernen ドイツ語を学ぶ
: fleißig Deutsch lernen 勤勉にドイツ語を学ぶ
: sehr fleißig Deutsch lernen 極めて勤勉にドイツ語を学ぶ
: (to) learn German very diligently 極めて勤勉にドイツ語を学ぶ
.....

* 教科書 S. 8-9 の Übung 1 の注で言及されているもの。

- ドイツ語の熟語はすべて不定詞句のかたちで書かれるので、なるべくこれに慣れておくとよい。
 - * 例えば、「～に参加する」を示す英語の熟語は「take part in-」や「participate in-」と書かれ、辞書にもそう載っている。同じ意味のドイツ語の熟語は、「an-teilnehmen」と、動詞が最後に来るかたちで書かれ、辞書にもそう載っている。
- 英語でいう「補語」(5 文型における SVC の C) のことをドイツ語では**述語内容語**や**述語補足語**などと呼んでいる。この授業では、教科書に合わせて述語内容語と言うことにする。

補足練習問題

[] 内の語彙を参考に、日本語の意味になる不定詞句をつくれ。

1. 中国語を学ぶ。[Chinesisch 中国語 lernen 学ぶ]
2. 物理学を研究する。[Physik 物理学 studieren 研究する]
3. 本を読む。[Bücher 本 lesen 読む]
4. 疲れている。[müde 疲れた sein である]
5. 極めてよくドイツ語を話す。[sehr 極めて gut よく Deutsch ドイツ語 sprechen 話す]
6. 明日ベルリンに行く。[morgen 明日 nach Berlin ベルリンに fahren 行く]

II 動詞の現在人称変化

1 基本的な現在人称変化 (S.8)

◇ 英語の動詞の現在形を考えてみよう。例えば、*learn* は各人称に対して、

I learn, you learn, he learns, we learn, you learn, they learn

となり、3人称単数現在形では動詞の原形に語尾-sがつく。*be* 動詞はもっと露骨で、

I am, you are, he is, we are, you are, they are

のように、各人称に対してバラバラのかたちになる。これが動詞の**現在人称変化**である。

* 「人称」概念（1人称／2人称／3人称に対して単数と複数がある）は英語で学習済みのはず。わかりますね？

◇ 動詞の現在人称変化と一緒に、**人称代名詞**を覚えてほしい。

* ここで登場する人称代名詞はすべて1格。授業第1回で少し触れた通り、1格は「主語になるかたち」と考えておけばよい。

格全般については教科書第2課で、人称代名詞全般については教科書第6課でのちほど扱う。

		人称代名詞	英語
単数	1人称	ich	I
	2人称（親称）	du	you
	3人称	er / sie / es	he / she / it
複数	1人称	wir	we
	2人称（親称）	ihr	you
	3人称	sie	they
単数+複数	2人称（敬称）	Sie	you

・英語の *I* と異なり、1人称単数の *ich* は語頭でなければ小文字ではじめる。

・2人称の人称代名詞には**親称**の *du*（単数）や *ihr*（複数）と**敬称**の *Sie*（単数および複数）の2種類があり、場合に応じて使い分ける。敬称の *Sie* は語頭大文字であることに注意。日本語で敬語を使わないときは *du*、使うときは *Sie* と考えればよいが、現代語の原則では、相手が *du* を使うならこちらも *du*、*Sie* を使うならこちらも *Sie* を使う。

・3人称単数の人称代名詞は、男性が *er*、女性が *sie*（語頭小文字）、中性が *es* で、いまのところ表の通りそれぞれ *he*、*she*、*it* に対応すると考えておけばよい。

* 英語との違いは、教科書第2課で「性」が登場したときにあらためて説明する。

・特に *sie/Sie* に注意。3人称単数女性 (*she*)、3人称複数 (*they*)、2人称敬称 (*you*) の3種類あり。

◇ **規則動詞**の場合、現在人称変化は、動詞の語幹に以下の語尾を加えてつくられる。

* 便宜上、3人称単数の人称代名詞は *er* で統一する。

	語尾
ich	-e
du	-st
er	-t
wir	-en
ihr	-t
sie	-en

これをまとめたのが、教科書 S. 8 の表である。まず、この表をマスターしてもらいたい。

* 規則動詞ではない動詞の現在人称変化は、これからおいおい学んでいく。

2 現在人称変化のヴァリエーション (S. 9)

◇ ここで挙げられている動詞も規則動詞として扱われるが、1 で学んだ典型的な規則動詞とは微妙な差異がある。ただし、そうなる理由については、以下のように考えればよい。

・ a) **arbeiten 型**（語幹が-tなどで終わる動詞）に関しては、語調を整えるために du、er、ihr の変化形で e が挿入されている（*du arbeitst や*er arbeit のようなかたちを避けている）。

	現在人称変化
ich	arbeite
du	arbeitst → arbeitest
er	arbeits → arbeitet
wir	arbeiten
ihr	arbeits → arbeitet
sie	arbeiten

・ b) **reisen 型**（語幹が-sなどで終わる動詞）に関しては、規則をそのまま適用すると*du reisst や*du sitzt のようなかたちが出現するが、これは er reist や er sitzt と発音的に区別できないため、それらと同じ du reist や du sitzt を採用していると考えればよい。

	現在人称変化
ich	reise
du	reisst → reist
er	reist
wir	reisen
ihr	reist
sie	reisen

・ c) **tun 型**（「語幹+-en」ではなく「語幹+-n」で構成されている動詞）は、基本的には語幹に規則通りの語尾をつけていけばよい。ただし、wir と sie に対しては、不定詞と同じかたちが現れる。

	現在人称変化
ich	tue
du	tust
er	tut
wir	tuen → tun
ihr	tut
sie	tuen → tun

* 教科書 S. 10 のもう一つの例である ändern は、ich に対して ändere のほかに ändre というかたちも持っている。現段階では、取り敢えず規則的な方を覚えておけばよい。

3 sein, haben, werden の現在人称変化 (S. 10)

◇ 先述のように、英語でも、*be* 動詞は完全に不規則な人称変化を行う。ドイツ語でも、

- *be* 動詞に相当する **sein**
- *have* に相当する **haben**
- *become* に相当する **werden**

は不規則変化動詞である。これらはすべて、（当然ながら）極めて頻繁に登場する動詞であり、いずれも教科書 S. 10 の表をもとに速やかに覚える必要がある。

* *werden* は未来形や受動態に用いるため、英語の *become* よりはかなり重要性が高くなっている。詳しくは、教科書第 12 課および第 14 課で扱う。

◇ *sein* に関しては、すべての変化形を覚える必要がある。

* *bin* や *bist* は英語の *be* と、*ist* は英語の *is* と似ている。

◇ *haben* と *werden* に関しては、*du* と *er* に対するかたち（教科書の太字部分）のみ不規則で、ほかは規則動詞と同じになる。よって、***du hast***、***er hat***、***du wirst***、***er wird*** というかたちのみ覚える。

* *hat* は発音に注意。授業第 2 回で学んだルール「アクセントのある母音のあとの子音が 1 つならその母音は長母音」の例外で、この *a* は短母音である。

練習問題の補足

Übung 1 (S. 8-9)

8. Fräulein は未婚女性に対する敬称であったが、現在では使わず（英語の Miss と同様）、もともとは既婚女性に対する敬称であった Frau に統一されているので注意。女性だけ未婚／既婚で敬称を分けるのは差別的と考えられるようになったため。

Übung 2 (S. 9)

6. *in* は前置詞で「～のなかで、～のなかへ」。英語の *in* と考えてよい。（⇒教科書第 5 課）

8. *gern* は副詞で「好んで」の意味。*gerne* というかたちもあり。店頭などでは「～をください」のような注文のニュアンスで使われることもある。ここでは *nicht* が *gern* を否定しているので、「ビールを飲むのは好きではありません」の意味になる。

Übung 7 (S. 11)

1～4. ドイツ語の場合、未来形は現在形で代用することができる。これらの文についても、未来形的に解釈してもよい。（⇒教科書 S. 48）

Ⅲ 単純な文の組み立て方

補足 単純な文の組み立て方

平叙文：主語－動詞－目的語／述語内容語／副詞句＋。

決定疑問文：動詞－主語－目的語／述語内容語／副詞句＋？

補足疑問文：疑問詞－動詞－（主語）＋？

◇ 現時点では、文の組み立て方は SVO / SVC 語順をベースに考えておいてもらいたい。

* 細かい理屈はのちほど、教科書第 2 課 B 以降に扱う。

Wir lernen Deutsch. 私たちはドイツ語を学んでいる。

Wir kommen aus Frankreich. 私たちはフランス出身である。

* aus は前置詞で「～から」。英語の *from*。 (⇒教科書第 5 課)

Lernst du Deutsch? 君はドイツ語を勉強していますか？

Was machen Sie? あなたはなにをしていますか？

Woher kommt ihr? 君たちはどこの出身ですか？

◇ **決定疑問文**とは、「はい」か「いいえ」で答える疑問文のこと。英語の *do* や *does* にあたる助動詞は必要なく、主語と動詞をひっくり返し、？で締める。

◇ **補足疑問文**とは、疑問詞を用いた疑問文のこと。やはり *do* や *does* にあたる助動詞は必要なく、疑問詞に動詞を続け、？で締めればよい。疑問詞は、次のものを覚えること。

疑問詞	英語	意味	格関係
was	<i>what</i>	何が、何を	1 格、4 格
wer	<i>who</i>	誰が	1 格
wo	<i>where</i>	どこで	副詞
woher	<i>from where</i>	どこから	副詞
wohin	<i>to where</i>	どこに	副詞
wann	<i>when</i>	いつ	副詞
warum	<i>why</i>	なぜ	副詞
wie	<i>how</i>	どのように	副詞

* 格はやはり教科書第 2 課で詳しく扱うが、ここでは 1 格は主語、4 格は目的語になると考えておけばよい。

** 英語の場合、通常 *to where* は使わず *where* のままとしたり (*Where did you go?* など)、*from where* の *from* も最後に持ってくる (*Where are you from?* など) のが普通であるが、ドイツ語では *wo*, *woher*, *wohin* の三者を明確に区別する。

◇ **否定文**は、現段階では英語の *not* にあたる**否定辞 nicht** を用いると考えればよい。基本的に否定したい語の前に置く。やはり英語の *do* や *does* にあたる助動詞は必要ない。

* *nicht* の詳しい使い方は、教科書 S. 28 や S. 54 のコラムであらためて扱う。

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coccan.jp/lecture/>